

ボランティア ◊ 物資提供市民 ◊ 被災避難者をつなぐ

笛吹市  
救援物資

# 支援センターだより

2011.  
7.20

笛吹市救援物資支援センター (〒406-0013) 笛吹市春日居町寺本136 (TEL) 0553-26-3512

## ありがとうございます

- 物資を提供された市民の皆さん
  - 支援センターの運営に関わるボランティアの皆さん
- おかげさまで「支援センター」は開設以来3か月余、いまでも続いています。

6月下旬から続く猛暑のなか、物資を提供してくださった市民の皆さん、支援センターで活動するボランティアの皆さん、お变りなくお過ごしでしょうか。

当支援センターは4月5日開設以来3か月半、皆さんのご協力のおかげで、被災・避難されてきている方がたに、救援物資をお渡し続けることが出来ました。厚く御礼申し上げます。

お渡ししてきた物資は多種多様、避難者の要望に出来る限り沿ってきましたが、一時(5月中旬ごろ)お米をはじめとする食料品などが不足気味となりました。

### 山梨日日新聞(5/23付)『善意の物資SOS』の報道あり

5月23日は朝から「物資を届けたいがセンターの場所は?」「宅配便でも送りたいが、届け先の住所は...?」などの電話が殺到。笛吹市内からだけでなく、県内各地からたくさんのお問合せとともに、多くの物資が寄せられました。

寄せられた物資は、米・カップ麺・缶詰・レトルト食品・調味料や、トイレトイーパー・ティッシュトイーパー・紙おむつ・洗剤などの日用品、夏物衣料など。

旅館・ホテルでの一時避難から、市営住宅などへの転入居に伴い、冷蔵庫・洗濯機や自転車、扇風機などの要望も出て来ました。

センター利用状況(のべ)	4/5~30	5/1~31	6/1~30
ボランティア参加者人数	533	268	177
物資提供(特送)件数	298	269	136
物資受取利用世帯数	154	104	96

★4月5日より開設 ★5月は連休と後半の土日は休み ★6月は月・水・金の週3日、午前(9~12時)中のみ開所。

# 物資続々 広がる支援

5月23日以降、100kgのお米を匿名で届けてくださった(2人)、5kg・10kgの米袋が連日センターに寄せられた。市外からも、北杜市から米60kg、都留から日用品雑貨、河口湖から扇風機……と、県内各地から宅配便で届けてくれた方もある。

市内の農産物直売所からほうれん草や玉ねぎ、ジャガイモなどの提供もあり、魚や肉まで保冷器機付で提供してくれた方もある。

生活協同組合パルシステムからは、味噌・はう油、麵つゆや油・ドレッシングなどもたくさん寄せられた。また、ボランティアに来ながら、不足気味の品も見て持参してくれる人もいる。

「自転車が欲しい……」との要望に、「自転車を提供しても良い……」という人に連絡し、いただきに上る。台も乗らないのがあるという。「パンクなど、修理を要すると思うが、修理代も持つから……」と、言ってくる。センターで、お預りして自転車やさんに持ち込んだら、自転車やさんは「そういうことなら修理代はいらないヨ……」と。善意の連鎖が続きます。「支援、っているいるなかたちがあるものですね。(これは、ほんの一例)」

## 『米-合、おかず-品』 持寄り運動も広がる

5月下旬からは、市・社会福祉協議会の呼びかけで、「米-合、おかず-品運動」

も実施され、市役所の各支所や社協、各図書館の窓口へ、市民から米や缶詰、乾麺(そうめん、ひやむぎ)などが届けられており、当分の間、継続中。中学校や小学校でも児童・生徒から集めていただいたものもあり、ここでも支援の輪は広がる。

支援センターでは、皆さんからお預りした物資を、主として市内への避難者の方にお渡ししています。これまでに寄せられた物資は、お米についてみると、6月末までに約2,200kg(内、「一合一品運動」によるものは米780kg、缶詰など1200点)にもなりました。

## 支援センターは 9月末まで続けます

笛吹市内への避難者は福島県の人が多く、7/19 現在:62世帯170人)、原発事故の影響が大、当分収束の見通しが立たないなか、9月末まで続けることにしました。

開所日・時間は、(月)(水)(金)の午前9時~12時まで、週3日の午前中です。

しばらくごぶさたしておられるボランティアさんも、都合をみてセンターに顔を出して下さい。

- ◇ 6/1 と 6/4 に東松島市での泥出しボランティアに参加された方、ご苦労までした。感想などを寄せただけだと幸いです。
  - ◇ 「息の長い支援」を続けるには、ボランティア、物資提供者・避難者のつながりが必ず……との思いあり、今回「支援センターだより」をつくらせてみました。ご意見、ご批判をいただければ幸いです。
- ボランティアリーダー (文責: 大竹)